

平成19年度新入生 大学生生活いよいよスタート

～入学式・学外オリエンテーション・教養演習旅行～

本学では4月7日に平成19年度入学式を挙行し、新入生を迎えた。
式辞で小山田了三学長が「大学生活は自らをつくり上げる期間、優れた社会人になることを目指し、出会いを大切に有意義な学生生活を送ってほしい。」と激励した。
また、新入生を代表して経営法学科の小原結実さん(盛岡一高卒)が「深い教養と人間性を養い、世界の平和や社会の発展に貢献できる人となれるように努力したい。」と誓った。
入学早々の4月19日・20日には、新入生学外オリエンテーションが岩手山青少年交流の家で実施された。教養演習の一環として行われる1泊2日のこの学外研修は、学生同士及び教職員との交流を図り、新入生が早く大学生活に馴染むことを目的としている。

初日はゼミ単位で自己紹介やそれぞれのテーマに基づいて討論会が活発に行われ、夕食後は学友会執行部によるレクリエーションが行われた。2日目は創作活動やスポーツ活動等を行った。

5月9日には17回目を迎える新入生の教養演習旅行が快晴のもと行われた。ゼミ単位で希望した4コースに分かれての日帰りバス旅行であったが、新入生達は、それぞれのコースを満喫し、また、学生同士の相互理解を図るという目的も果たした。



●入学式 ●学外オリエンテーション

●教養演習旅行

いわて留学生交流 推進協議会参加



留学生生活発表会では発表者4名(内本学1名)が日本での生活や勉強に取り組む姿を話し、参加した留学生の反応も国籍によって様々だったが他国からの留学生の心を理解できたようであった。

その後の交流懇談会では、岩手県内の留学生及び各大学教職員等約150名が和やかな雰囲気の中で交流を深めた。

参加した本学生の安ソヨンさん(2年・韓国出身)は、「他の留学生の考えと自分が共通できたことが良かった。日本での生活を楽しく、一生懸命学ぶという情熱はどここの留学生でも同じだと感じた。」と笑顔で感想を語った。



中国海洋大学代表団 来学 ～本学と中国海洋大学の協定締結～

5月31日より2日間にわたり、中国海洋大学の代表団が来学。
中国海洋大学には、2002年に本学の国際交流推進計画のもとに理事長をはじめ入試部長らが訪問した経緯があり、今回の来日となった。
1日目は、本学において、中華人民共和国中国海洋大学国際教育学院との学生受け入れに関する協定を締結した。両大学の概要説明や海洋大学との提携についてなど情報交換が行われた。
2日目は、本学施設を熱心に見学した後、中国留学生と懇談会を行った。懇談会では本学中国留学生の実情などについて和やかな雰囲気で見学交換がなされた。
今後進められる両大学の交流が期待される。

スポーツフェスティバル

第7回目となるスポーツフェスティバルが、6月12日スポーツセンターで開催された。開会式後のラジオ体操、そして恒例となっている「学長に挑戦じゃんけんぽん」で和気あいあいの雰囲気が生まれ、その後12チームに分かれた学生達はfor the teamの精神で競技を盛り上げた。
競技の結果は、総合優勝が黄緑色(小林・高橋一・崔・影山ゼミ)チーム、準優勝が灰色(菊池・土田・吉岡・西川教養ゼミ)チーム、3位が茶色(小山田・小島利・西川専門ゼミ)チームであった。部対抗リレーは、今年は男女に分けて行い、男子の部優勝が陸上部、準優勝が硬式野球部、3位がサッカー部、女子の部優勝がソフトボール部、準優勝がホッケー部であった。ユーモア溢れる特別賞には昨年に続き男子柔道部が選ばれた。
学友会執行部やゼミ幹事の頑張もあり、大成功に終わった。



SPORTS TOPICS

ユニバーシアード大会 日本代表選手となって

ソフトボール部…佐々木瞳さん(4年)

本年4月、第24回ユニバーシアード競技大会の選手選考から一週間後、ソフトボール競技日本代表団の選手に選ばれて合格通知が届きました。

嬉しさと、世界各国との対戦で自分の力を試したいという挑戦心が胸にあふれました。その後、静岡で合宿を行い、一部リーグの実業団チームをはじめ男子チームとの試合をこなしてスピードになれ、国際大会で互角に戦えるという自信をもつ事ができました。出発前にした日本選手団が掲げた目標は、前回大会の成績を上回る金メダルを奪取することでした。

ユニバーシアード競技大会は大学生のオリンピックといわれます。8月3日、日本選手団の結団式で君が代が流れた時は、身が引き締まると同時に、日本代表という事に自覚と責任を持って戦いぬくことを心に誓いました。暑さの中、決戦の地タイのバンコクで4日間の練習期間を終え、予選リーグが始まりました。私は、レフトでスタメン出場している。今年度はこの時期と12月の冬期休業期間中に実施され、大学院を担当する諸先生から指導を受ける機会となっている。

7月3日には、藤原隆男ゼミの佐々木瞳さん、伊藤善朗ゼミの佐々木裕司さんが発表しました。7月5日には、岸田貞夫ゼミの小野秀樹さん、上村隆夫さん、佐藤和仁さん、鈴木心也さん、橋本哲夫さんが発表を行った。
当日は発表が20分、質疑応答が10分という形式で進行し、短い時間だったが非常に活発な議論が交わされた。来年の1月には素晴らしい修士論文が仕上がることを予感させる発表会だった。

海外遠征に参加して

ホッケー部…小沢みさきさん(4年)

私は今回、5月11日から5月29日まで日本代表の海外遠征に参加する事が出来ました。遠征先はワールドランキング1位のオランダ。アテネオリンピック金メダルのドイツの2カ国、合計6試合を行いました。今回の遠征では、来年の8月に中国で行われる北京オリンピックのホッケー競技の日程に近い形で連戦などのスケジュールが計画されていました。世界でもトップレベルのチームとそしてオリンピックを想定して試合が組まれた遠征のメンバーに選出していただいた事を非常に嬉しく思いました。

6試合を終えての結果は4勝1敗1分。オランダでは国内のリーグ戦と重なってしまい半分ほどがベストメンバーではなかったものの、やはり世界のトップチームに対し3試合で2勝1敗という結果は大きな収穫になりました。ドイツでも3試合で2勝1分という結果で終わる事が出来ました。6試合を通じて感じた事は世界の個人技術の高さです。基本技術はもちろん、長いリーチを生かしたプレー、強く正確なストロークなど日本チームにはまだ足りない部分があります。そこを補うには日本チームの細かい技術や組織プレーをもっと強化しなければならないと感じました。

この2007年は海外チームとのテストマッチや海外遠征が多く計画されています。そしてこのオランダ・ドイツ遠征はその皮切りとなる遠征でした。これから続く海外遠征、強化合宿、テストマッチ、そして最終目標である2008年北京オリンピックでのメダル獲得に向けこの遠征で学んだ事を土台にしながら、チームとして個人としてもさらに向上していけるようにこれからも努力していきたいと思っています。

国際会議を終えて 西川明男 准教授

東京大学の恩師や仲間の研究者とともに、DNAナノロボティクスのための基礎技術に関する論文を投稿したところ、口頭発表の機会を頂けるという査読結果が出ました。そこで、第一著者だった私は、米国のテネシー州立メンフィス大学で行われたDNA計算とDNAナノテクノロジーに関する国際会議に参加して口頭発表を行ってまいりました。
この国際会議は、毎年行われている会議であり、今年で13回目なので、DNA13と呼ばれていました。この国際会議は、この分野としては世界最高レベルであり、私がこれまで何回か論文を投稿した結果は、ボスター発表止まりでした。しかし、今年は、投稿数62件中の24件の口頭発表に入ることができ、若き權威であるカリフォルニア工科大学のウィンフリー教授が司会をしているセッションで発表してまいりました。そして、同様に著名なオックスフォード大学のターバーフィールド教授などからも建設的なコメントを頂くなど、私の拙い発表技術の割にはなかなかの好意的な反応を得ることができました。
ただし、今回も英語でのプレゼンテーション能力の重要さなどを再認識させられましたので、次の機会に向けて一層の努力をしていきたいと思っています。

学生ボランティア活動、積極的に展開

本年度、学内に「富士大クラブハンズ」が誕生した。授業「人間社会とボランティア」や、18年度に新設された福祉・経営コースの専門科目の講義から、21世紀社会の進むべき方向が共生社会であることを学び、その構築や進展に関わることに関心を抱く学生が自主的に組織した学生ボランティアグループである。現在、常時活動に参加している主メンバー7名に加え、新メンバーの加入が増えている。
共生社会構築の原動力は市民活動であり、市民活動の具体的な実践の一つにボランティア活動がある。クラブハンズのメンバーは地域のイベント支援ボランティア、福祉施設やNPOの支援ボランティア、企業の社会貢献活動への体験参加など、積極的に活動を展開している。
地域社会の抱える課題解決のためにボランティア活動という形で関わることは、地域の活性化や希薄になりがちな現代社会の人の人との結びつきに役立つ経験となり、学生たちにとって得難い学びとなる。社会を元気にする学生のマンパワーに期待したい。



OBから一言

佐々木 裕司さん(平成6年卒)
●岩手県出身 ●ジブラルタ生命保険株式会社



大学を卒業し、社会に出てから無我夢中で仕事をし、忙しくも充実した日々を過ごして来ましたが、卒業を目前に控えた頃は、不安で心細い感情を抱いていた事がとても懐かしく思われます。
私は現在、外資系のジブラルタ生命保険株式会社に勤務しており、生命保険契約に関する営業の仕事に従事しています。今、日本の生命保険の分野は立ち遅れています。年齢、職業、家族構成、人生設計が人それぞれ異なるのに、同じ内容の保険に入るのはおかしい。当社ではニードに合わせたオーダーメイドを提供すると言うニードセールスをしており、「日本の生命保険を変える」そんな思いで質の高い仕事を心掛けて頑張っています。
それから私は、昨年から社会人学生として、富士大学大学院の経済・経営システム研究科に在籍しており、伊藤善朗教授という素晴らしい先生の下、会計学を学んでいます。仕事との両立はとて難しいですが、税理士の資格取得を目指して日々努力しています。同じゼミ生が真剣に取り組んでいる姿を見ると、「自分も頑張らなければ」とモチベーションが上がります。人生の中のこのような機会を大切に過ごして行きたいと思っています。

最後に、学生の皆様には、大学卒として社会に出て、温かく迎えてくれる、世の中は皆々あります。山に行けば行く程それは感じています。思いも、でも負けないで将来を勝ち取って欲しいと思います。立志の気概を持ってこれから頑張って下さい。

小林 伸也さん(平成18年卒)
●新潟県出身 ●JR東日本



大学生活を振り返ると「社会に出る上での大切なものを多く得ることができた4年間」であったと思います。富士大学で学んだ経済学や部活動を通して貴重な経験をする事ができたし、思い出ができました。在学中は卓球部に所属し、多くの仲間と共に寮生活をし、切磋琢磨していく中で団体行動や上下関係の仲からお酒の飲み方までたくさんのことを学ぶことができました。それらの一つ一つが生活のいろいろな場面役立っていると感じています。
私は東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)で働いています。主な業務は、窓口でのきっぷの販売や、駅での放送案内等です。この仕事は小さなお子様から高齢者の方まで幅広い人と関わることができ、とてもやりがいがあります。列車の遅れや遅延等でお叱りを受けることもありますが、それ以上にお客様に時間の案内や、番線等の案内をしたときに「ありがとう」とお声をかけていただいた時の喜びはとて大きいです。
今現在私は、来年度の車掌試験に向け勉強中です。将来の目標は新幹線の運転士になること。そのためのステップである車掌になるため何事にもチャレンジし経験を積んでいきたいと思っています。
皆さんは将来の目標を持っていますか?明確に目標が決まっている人もいればまだ模索中の人もいます。大事なものは何事にも一生懸命になる、世の中のことだと思えます。勉強や部活、遊びも一生懸命にやることで見えてくるものがあると思います。人生の中で一回しかない貴重な大学生活を有意義に過ごし目標を見つけ、突き進んでほしいと思います。まだまだ未熟な私ですがOBとして陰ながら応援しています。

父母懇談会開催日程

日時	会場	お問い合わせ先
9月3日(月)	関東地区父母懇談会(東京)アルカディア市ヶ谷(私学会館)	03-3261-9921
9月4日(火)	福島県地区父母懇談会(郡山)郡山ビューホテルアネックス	024-939-1111
9月5日(水)	山形県地区父母懇談会(山形)ホテルキャスル山形	023-631-3311
9月6日(木)	宮城県地区父母懇談会(仙台)仙台ガーデンパレス	022-299-6211
9月8日(土)	北東北地区父母懇談会(花巻)富士大学(681教室及びゼミ室)	0198-23-6221
9月15日(土)	青森県地区父母懇談会(青森)青森国際ホテル	017-722-4321

第7回 全国高校生 童話大賞

宮沢賢治のふるさとであり賢治が童話の創作に情熱を注いだまち花巻は、賢治の文学や幸福の思想を伝えるべく全国高校生童話大賞実行委員会(富士大学・花巻市・花巻市教育委員会)を設けて全国高校生童話大賞を実施しています。これは、「人生の中で最も多感で豊かな創造力を内包している高校生にみずみずしい感性を引き出す機会を提供したい」との趣旨で本企画を実施しているものです。



海だべがど おら おもたれば
やっぱり光る山だぢやい
ハウ 風吹けば 虎踊りだぢやい
～心象スケッチ 豊と修蔵より～

花巻まつり



400年の歴史を持つ花巻まつりは9月7日から9日の3日間行われる。富士大生の若さを爆発させる神輿パレードは市民の方々からも好評である。観るより主役として参加する方が断然楽しいはず。今年も「ワッショイ!!」のかけ声がこだまする。

図書館専門職員養成講習

7月17日に平成19年度文部科学大臣委嘱図書館専門職員養成講習の開講式が行われた。
この講習は、大学・専門・公共の各図書館において働く「司書」「司書補」を養成するために図書館法に基づき開講され、受講者は図書館学の専門知識と技術をマスターすることになる。
北海道・東北地区では唯一本学だけの開催で、全国各地から資格取得を目指し受講者が集まる。司書は7/17～9/11まで(57日間)、司書補は7/17～8/25まで(40日間)の集中講義となっている。
第40回を迎えたこの養成講習で昨年までに2,909名の受講生が修了し、全国の図書館等で活躍している。



公演を終えて

文化部活動報告 演劇部 清水みゆきさん(4年)

私は、7月21日・22日に行われた、劇団・天体望遠鏡の第7回公演「アノ箱舟」に参加しました。助っ人という事で参加したのですが、5月末から2ヶ月程練習していくうちに、楽しんでいる自分がいました。脚本から舞台制作まで何もかもが手作り、で、本番では自分なりに一杯演技をして、無事に2日間の日程を終える事ができましたが、これも劇団の方々のおかげです。初めての演劇、しかも屋外ということで、初心者の方は緊張で震えていましたが、劇団の方々に勇気づけられたからこそ演技ができました。公演を通しての皆さんとの一体感と公演後の高揚感は一生涯忘れられません。これからは、この劇団の一員として頑張っていきたいです。



●左側:清水みゆきさん(4年)
●右側:板垣由香さん(4年)

屋外グラウンド照明設備完成!!

本学の屋外スポーツ施設である野球場(外野人工芝)・全天候型400m陸上競技トラック(人工芝サッカー場)・フットボール場の照明設備が完成した。また、スポーツセンター周辺のグラウンド整備も行い、フェンス等を設置した。
本学学生が勉強とスポーツを両立し、夜間でも練習できる環境が整った。

